



2026年3月期 第3四半期決算短信【日本基準】(非連結)

2026年2月12日

上場会社名 株式会社シキノハイテック 上場取引所 東

コード番号 6614 URL <https://www.shikino.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 高橋 信一

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役執行役員管理本部長 (氏名) 外田 敏彰 TEL 0765-22-3477

配当支払開始予定日 一

決算補足説明資料作成の有無: 有

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の業績 (2025年4月1日～2025年12月31日)

(1) 経営成績 (累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	4,711	△1.4	△160	—	△163	—	△93	—
2025年3月期第3四半期	4,777	△8.9	△6	—	△11	—	△10	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2026年3月期第3四半期	円 銭 △21.21	円 銭 —
2025年3月期第3四半期	△2.26	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第3四半期	5,687	2,294	40.3
2025年3月期	5,412	2,471	45.7

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 2,294百万円 2025年3月期 2,471百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年3月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 15.00	円 銭 15.00
2026年3月期	—	0.00	—	—	—
2026年3月期(予想)				15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 2026年3月期の業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,446	△1.1	△183	—	△180	—	△123	—	△28.12

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 有

業績予測の修正については、本日（2026年2月12日）公表いたしました「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|----------------------|----|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | ：無 |
| ② ①以外の会計方針の変更 | ：無 |
| ③ 会計上の見積りの変更 | ：無 |
| ④ 修正再表示 | ：無 |

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期 3Q	4,426,000株	2025年3月期	4,426,000株
② 期末自己株式数	2026年3月期 3Q	34,877株	2025年3月期	2,957株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期 3Q	4,402,165株	2025年3月期 3Q	4,424,358株

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
(4) 繼続企業の前提に関する重要事象等	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	6
(セグメント情報等の注記)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における世界経済は、米国の相互関税による影響や中国における不動産市場の低迷に加え、ロシア・ウクライナの紛争問題の長期化や中東地域における地政学的緊張の継続、台湾有事に絡む日中関係の悪化など、先行きが不透明な状況で推移しました。国内においては、物価高の影響から個人消費の持ち直しに弱い動きが見られるものの、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要の増加、各種政策による景気下支えの効果といった動きもあり、全体としては緩やかな回復基調で推移しました。半導体市場においては、生成AIの活用急拡大によりサーバーやデータセンター向け需要が引き続き拡大しているほか、AI機能が搭載されたパソコンやスマートフォンの普及本格化により高性能ロジック半導体やメモリの需要も堅調に推移しましたが、メモリ価格は高騰しています。また、車載向け半導体に関しては未だ需要回復に足踏み感が見られ、軟調に推移しました。

このような環境の中、電子システム事業においては、車載用半導体の在庫調整が継続しており、チャンバー式LSI向けバーンインボードを中心とする半導体後工程商材の受注が低迷しました。一方で、高電力LSI向けカスタムバーンイン装置やイメージセンサー向けカスタムバーンインボードの受注は増加しました。産業機器向け製品では、自動車市況の不透明感により前年度までの積極投資が大きく鈍化したことから、車載機器向け専用計測器の受注が大幅に減少しましたが、非車載計測機器の開発は順調に進んでおり、前年度比で伸長しました。福島製造部においては、既存顧客製品の市況低迷と米国の相互関税影響により受注が減少し、また、新規顧客向け開発も受注が伸び悩みました。一方でこれまで海外に生産委託していた製品の福島製造部への移管が完了し、作業開始に至りました。

マイクロエレクトロニクス事業においては、次世代電気自動車向けLSI設計受託に引き続き注力しており、アナログLSI設計において、パワートレイン向け電源IC開発を中心に受託が堅調に推移しました。また、海外販売拡大の取り組みでは、北米の大手半導体ベンダーとの新規取引を開始したほか、新たに北米中堅半導体ベンダーとの新規取引開始も確定しました。デジタルLSI設計受託においては、予定していた産業機器向けのLSI開発が市場の不透明感により開発中止となり、受注が減少しました。このほか、高画質・高圧縮が特徴の次世代画像圧縮JPEG-IP製品をリリースし、商社を通じてワールドワイドでの販売プロモーションを開始しました。

製品開発事業においては、インド向け海外ATMや公共施設点検用ドローン向けを中心とした産業機器向けカメラが堅調に推移しました。また、アミューズメント機器向けカメラも増産となりました。一方、国内ATM及びセルフレジ向けカメラは需要が低迷し、また、昇降機保守用カメラについても市場ニーズとの乖離により減産となりました。見守りシステムでは、医療用ソフトウェアとの連携機能を付加する開発に着手しており、2026年度の市場投入を目指しております。

これらの結果、当第3四半期累計期間の経営成績は、売上高4,711,435千円（前年同四半期比1.4%減）となり、営業損失は160,439千円（前年同四半期は営業損失6,950千円）、経常損失は163,875千円（前年同四半期は経常損失11,372千円）、四半期純損失は93,370千円（前年同四半期は四半期純損失10,015千円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

a. 電子システム事業

電子システム事業は、自動車市況の不透明感や車載用半導体の在庫調整により主要顧客の生産調整、設備投資の抑制または凍結の状態が続き、車載向け半導体後工程商材及び専用計測器の受注は大きく低迷しました。一方で、カスタムバーンイン関連製品や非車載計測器の受注は順調に推移しました。

これらの結果、電子システム事業は、売上高は2,272,383千円（前年同四半期比5.2%増）、セグメント営業損失は118,838千円（前年同四半期はセグメント営業損失60,816千円）となりました。

b. マイクロエレクトロニクス事業

マイクロエレクトロニクス事業は、イメージセンサーと自動車向けLSI設計受託が堅調に推移し、アナログLSIにおいては、海外顧客からの新規発注もあり順調に受注を積み重ねました。デジタルLSIについては、産業機器向けLSI設計受託が市場の不透明性により開発中止となり、受注が低迷しました。IP販売のロイヤリティについて、モバイル向けを中心に堅調に推移しており、大口顧客との年間契約の継続も確定しました。

これらの結果、マイクロエレクトロニクス事業は、売上高は1,577,543千円（前年同四半期比0.6%増）、セグメント営業利益は85,954千円（前年同四半期比36.7%減）となりました。

c. 製品開発事業

製品開発事業は、国内ATM及びセルフレジ向けカメラに加え、昇降機保守用及び検体検査機向けカメラが低調に推移しました。一方、海外ATM向け製品及びドローン向けカメラは順調に推移し、アミューズメント向けカメラの出荷も好調でした。カスタム開発では、AI機能付きカメラ開発を新規に受注したほか、次期ド

ローン向けカメラ及びアラウンドビューカメラの開発案件を受注しており、2026年度以降の本格量産を計画しています。

これらの結果、製品開発事業は、売上高は861,507千円（前年同四半期比18.0%減）、セグメント営業損失は127,555千円（前年同四半期はセグメント営業損失81,910千円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における資産合計は、5,687,299千円となり、前事業年度末に比べ、274,764千円増加いたしました。これは主に、電子記録債権が264,320千円、受取手形、売掛金及び契約資産が236,228千円、仕掛品が91,599千円、流動資産のその他が60,641千円増加した一方、現金及び預金が346,241千円、無形固定資産が37,143千円減少した影響によるものであります。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債合計は、3,393,257千円となり、前事業年度末に比べ、451,748千円増加いたしました。これは主に、短期借入金が440,000千円、流動負債のその他が135,420千円増加した一方、賞与引当金が75,148千円、未払法人税等が39,909千円減少した影響によるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産合計は、2,294,042千円となり、前事業年度末に比べ、176,983千円減少いたしました。これは主に、利益剰余金が159,716千円減少したことによるものであります。

これらの結果、自己資本比率は40.3%（前事業年度は45.7%）となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

電子システム事業において、自動車市況の不透明感による顧客の設備投資が大きく鈍化した事による車載機器向け専用計測器の受注の大幅な減少、及び福島事業所における既存顧客製品の市況低迷が継続しており、当初の想定から受注が回復していません。また、データセンター向けモジュールの信頼性試験ボードやOSAT向け半導体信頼性試験装置、非車載向けの専用計測機においても当初想定した受注時期が顧客要因で遅れてきた事から減収となる見込みとなりました。利益面に関しては、このような減収による影響に加え、経費削減に最大限取り組んだものの、電子システム事業の商品構成変化や半導体信頼性試験装置の資材費の急激な高騰の影響により大幅な減益となる見込みとなりました。このような状況の中、当事業年度の見通しについて見直した結果、当初の想定より大きく減収・減益となる見込みとなりました。これらの結果、2026年3月期通期業績予想につきましては、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益をいずれも下方修正することとしました。

詳細につきましては、本日（2026年2月12日）公表しました「通期業績予想の修正に関するお知らせ」に記載のとおりであります。

(4) 繼続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流动資産		
現金及び預金	557,141	210,900
受取手形、売掛金及び契約資産	1,770,218	2,006,446
電子記録債権	64,406	328,726
製品	158,083	189,947
仕掛品	215,554	307,153
原材料及び貯蔵品	679,859	651,883
その他	101,585	162,227
流动資産合計	3,546,848	3,857,287
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	471,494	460,229
土地	457,539	457,539
その他（純額）	106,102	99,664
有形固定資産合計	1,035,136	1,017,433
無形固定資産	263,752	226,608
投資その他の資産		
繰延税金資産	438,546	474,943
その他	128,251	111,026
投資その他の資産合計	566,797	585,970
固定資産合計	1,865,686	1,830,012
資産合計	5,412,535	5,687,299
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	463,806	495,129
短期借入金	200,000	640,000
1年内返済予定の長期借入金	139,968	188,334
未払法人税等	45,298	5,389
賞与引当金	193,057	117,909
受注損失引当金	35,474	34,162
その他	490,915	626,336
流動負債合計	1,568,518	2,107,260
固定負債		
長期借入金	315,095	236,757
退職給付引当金	923,184	919,103
資産除去債務	110,000	110,000
その他	24,711	20,136
固定負債合計	1,372,990	1,285,997
負債合計	2,941,509	3,393,257
純資産の部		
株主資本		
資本金	421,739	421,739
資本剰余金	352,667	354,277
利益剰余金	1,659,911	1,500,194
自己株式	△582	△27,225
株主資本合計	2,433,735	2,248,986
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	37,290	45,055
評価・換算差額等合計	37,290	45,055
純資産合計	2,471,025	2,294,042
負債純資産合計	5,412,535	5,687,299

(2) 四半期損益計算書

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	4,777,472	4,711,435
売上原価	3,848,674	4,023,916
売上総利益	928,798	687,518
販売費及び一般管理費	935,748	847,957
営業損失 (△)	△6,950	△160,439
営業外収益		
受取利息	5	66
受取配当金	2,317	2,541
仕入割引	42	138
補助金収入	1,798	—
資材売却益	5,051	3,928
その他	1,842	3,477
営業外収益合計	11,057	10,152
営業外費用		
支払利息	4,554	6,920
為替差損	4,094	2,772
譲渡制限付株式関連費用	5,351	1,928
その他	1,479	1,967
営業外費用合計	15,480	13,589
経常損失 (△)	△11,372	△163,875
特別利益		
固定資産売却益	528	—
投資有価証券売却益	8,585	32,094
特別利益合計	9,113	32,094
特別損失		
固定資産除却損	238	0
投資有価証券売却損	—	3,635
特別損失合計	238	3,635
税引前四半期純損失 (△)	△2,497	△135,416
法人税、住民税及び事業税	2,420	2,584
法人税等調整額	5,096	△44,629
法人税等合計	7,517	△42,045
四半期純損失 (△)	△10,015	△93,370

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	105,763千円	102,952千円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	四半期損益 計算書 計上額
	電子システム 事業	マイクロ エレクトロ ニクス事業	製品開発 事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,159,357	1,567,401	1,050,713	4,777,472	—	4,777,472
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	2,159,357	1,567,401	1,050,713	4,777,472	—	4,777,472
セグメント利益又は損失 (△) (注)	△60,816	135,776	△81,910	△6,950	—	△6,950

(注) セグメント利益又は損失 (△) の合計額は四半期損益計算書の営業損失と一致しております。

II 当第3四半期累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	四半期損益 計算書 計上額
	電子システム 事業	マイクロ エレクトロ ニクス事業	製品開発 事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,272,383	1,577,543	861,507	4,711,435	—	4,711,435
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	2,272,383	1,577,543	861,507	4,711,435	—	4,711,435
セグメント利益又は損失 (△) (注)	△118,838	85,954	△127,555	△160,439	—	△160,439

(注) セグメント利益又は損失 (△) の合計額は四半期損益計算書の営業損失と一致しております。